



体育ではみんな一緒に



先生同士で子どもたちの情報を共有



のびっこで見せる生き生きとした表情



通常の学級で給食を受け取る



のびっこは少人数で一人一人に寄り沿った授業を実施



のびっこでの真剣なまなざし



学習室の落ち着いた環境で給食を食べる米澤さん

毛利台でのインクルーシブ教育は2016年、県からモデル校に指定されたことをきっかけに始まりました。3年間、「仕組みづくり」「みんなの教室と通常学級の連携」「ユニバーサルデザイン化」を重点に取り組み、少しずつ定着させてい

「のびっこ」に行っているね

2時間目の終わりを知らせるチャイムが鳴ると、一斉に子どもたちが校庭に駆け出してきました。15分間の業間休み。サッカーや鬼ごっこ、ジャンケルジムにバスケットボール。校庭のあちこちから笑い声が上がり、澄んだ空に広がっていきます。

した。特徴的なのは、みんなの教室の中に設けた「のびっこルーム（以下、のびっこ）」です。のびっこは、学習に不安のある児童が少人数で学び、自信を取り戻して通常の学級に戻るための場所です。校内の教育相談コーディネーターを務める榎木健太教諭は「初めは勉強のできない子が行く場所と捉える保護者や児童もいたけれど、今では『のびっこ行ってくるね』『行ってらっしゃい』と、気軽に行き来する場所になっている」と目を細めます。

毛利台では、特別支援学級（以下、学習室）を利用する児童も、通常の学級の一員です。体や心の状態に合わせて、通常の学級と学習室を行き来しています。

関わりながら互いを知ってほしい

米澤幸大さん（2年）も学習室を利用する一人。体育や図工、音楽、学級活動などは、学習室の担任などのサポートを受けながら、通常の学級でみんなと一緒に学んでいます。友達と関わるのが好きだといい幸大さん。一方で、コミュニケーションの取り方がうまくいかずストレスを感じることがあることも、体を動かすことや、音楽に合わせて踊ることが好き。おしゃべり好きという自分らしさをまだ出せていないと話すと母親の絵美さん。「学校でいろいろな人と関わる中で、うまくいかないこともあるけれど、みんなに幸大のことを知ってもらいたいし、幸大にもみんなのことを知ってほしい」と願っています。

子どもの気持ちに寄り添いたい

学習室をはじめ、子どもたちの学校生活は、教員だけでなく多くの人に支えられています。

みんなでつないで変えていく

「毛利台で当たり前になっていきます。」「キーン、コーン、カーン、コーン」。始業を知らせるチャイムが雲一つない空に響き渡ると、子どもたちははくはくとした教室を伸び伸びと行き交います。今日も、垣根のない学校の一日が始まりました。



のびっこにはみんなが自由に入ります

学校で子どもたちを支える方を募集

特別支援教育助員 (特別に支援が必要な児童・生徒の介助)

勤務日時 週1～3日程度 8時30分～15時45分 (中学校は16時45分) 時給 1075円 (看護師は1565円)

日本語指導協力者

勤務時間 週3日以内 1回2時間以内 時給 3000円 教育指導課 ☎225-2660

学力ステップアップ支援員 (教員の学習指導補助)

勤務時間 週2～4日程度 1日5時間 時給 1075円 教職員課 ☎225-2602

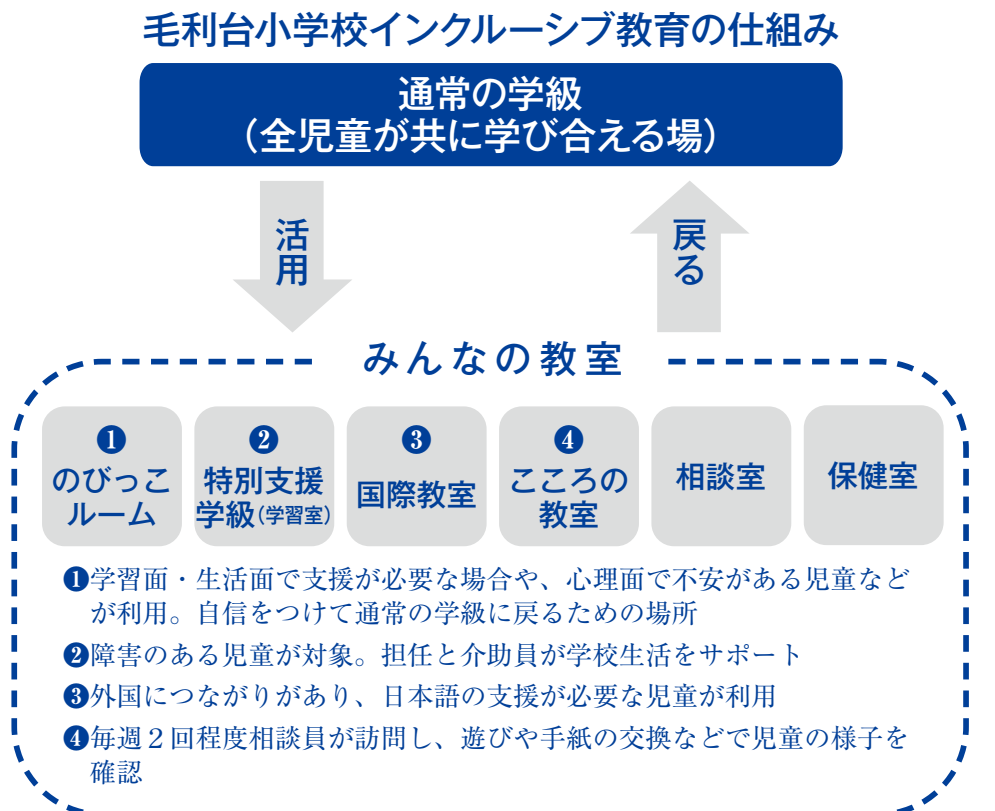


子どもだけでなく地域の未来のために変えていく

国際協力機構 (JICA) 横浜センター 技術顧問 (多文化共生) 滝坂 信一さん

毛利台小学校が県の「みんなの教室」モデル校になった2016年から、3年間一緒に取り組みました。こうした取り組みは、仕組みをつくって完成というものではありません。子どもたち、保護者、先生、地域の皆さんが、一緒に学ぶ仕組みを持った学校が大切だと実感し、継続して取り組み、文化として創っていくものです。特に、子どもたちの声を聞いていくことを欠かすことができません。「インクルーシブ」は、「例外なく一人一人にとって暮らしやすい場所」をつくる取り組みです。嫌なことや苦手なこと、好きなことや得意なこと、それを伝え合い、分かち合い、一緒に工夫合っていくことが、誰にとっても安心して過ごせる学校を創ることにつながるのだと思います。子どもたちがそのような環境で学び育つことの向こうに、厚木という地域が「インクルーシブ」になっていくことをイメージできると思います。地域の皆で学校を創っていくことは、住みやすい地域づくりそのものでもあります。

垣根のない学校 特集: 毛利台小学校のインクルーシブ教育 みんなが共に学び、共に育つための学校をつくりたい。7年前に始まった毛利台小学校の取り組みが、文部科学大臣奨励賞を受賞しました。その日常に目をやると、学校だけでなく、誰もが過ごしやすい社会をつくるための芽が顔をのぞかせていました。



※市立小・中学校では、全校で学習室の児童が通常の学級の一員になっている他、学校の実情に合わせたみんなの教室を設けている

【インクルーシブ教育とは】 全ての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことを通して、互いを理解し、尊重し合う共生社会の実現を目指す教育。

【毛利台小学校では】 全ての児童が「通常の学級」の一員。障害がある、外国につながる児童がある、人間関係づくりに課題があるなどの実情に合わせて、部分的に「みんなの教室」を利用し、通常の学級に戻る。みんなの教室を使った一人一人を大切に教育が評価され、全国の学校を対象とした第37回教育奨励賞で文部科学大臣奨励賞を受賞した。



毎週、校長・教頭・教育相談コーディネーターらで開く会議